

# ニュース & トピックス

## 志賀原子力発電所敷地内シーム<sup>※1</sup>追加調査報告の概要についてお知らせします。

※1:シームとは、岩盤中の割れ目にある粘土などの軟弱物質の薄い層。

平素は、当社の事業活動につきまして格別のご配慮を賜り厚くお礼申し上げます。

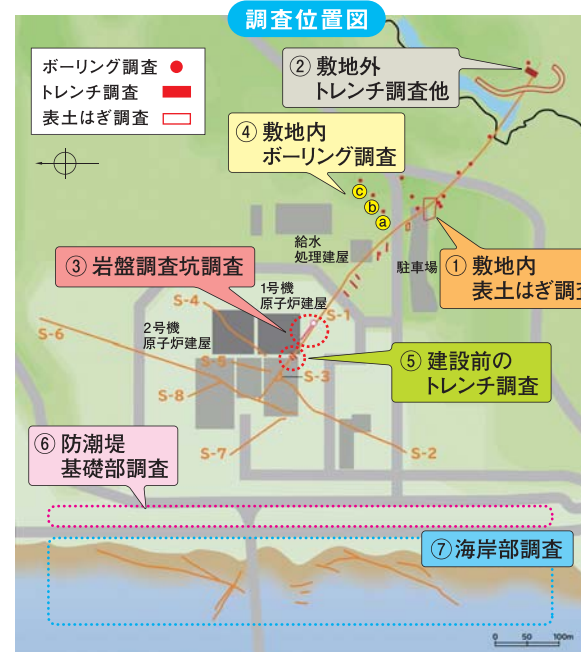
当社は、平成24年7月18日、原子力安全・保安院からの「敷地内破碎帯の追加調査計画の策定について(指示)」に基づき、7月25日に追加調査計画を報告、8月10日より調査を実施してまいりました。

このたび、中間報告(12月7日)以降の調査で得られたデータも含め、これまでの調査結果に基づき報告書を取りまとめ、平成25年6月6日、原子力規制委員会に報告しました。

### 結論の骨子

- シームS-1は、活動性が問題となるものではなく、耐震設計上考慮すべき活断層ではありません。 調査結果 1,2,3より
- 敷地内シームについては、活動性が問題となるものではなく、耐震設計上考慮すべき活断層ではないと判断されます。 調査結果 4より
- 建設前に行ったトレンチ調査<sup>※2</sup>でのシームS-1の岩盤上面の段差は侵食作用によるものと考えられます。 調査結果 2,5より

※2: 地面に直接溝を掘り、地質状況を確認する調査



### 調査結果1 シームS-1の活動性 調査位置図 ①②

#### ①敷地内 表土はぎ調査

敷地内表土はぎ状況

#### ②敷地外 トレンチ調査

敷地外トレンチ掘削状況

敷地内表土はぎ調査や敷地外トレンチ調査の結果、シームS-1を含む岩盤の上面及びその上を覆う高位段丘I面<sup>※3</sup>の堆積物に変位・変形は認められないことから、少なくとも12~13万年前<sup>※4</sup>以降の活動はありません。

※3 高位段丘I面とは、標高約40mに分布しており、構成する段丘堆積物は約20万年前に形成されたと考えられます。  
 ※4 断層の活動性を判断する基準 (注)上写真の縦に伸びる黒いスジは、分析のため試料採取した跡です。

### 調査結果2 シームS-1の性状 調査位置図 ③

岩盤調査坑において、安山岩礫がシームS-1を分断するように分布していることなどから、シームS-1は、安山岩礫を破断させるなどの動きがあったとは考えられません。

#### 岩盤調査坑イメージ図

#### 横抗全景写真

シームS-1 シームS-1<sup>※5</sup>

#### シームとその周辺の礫の観察写真

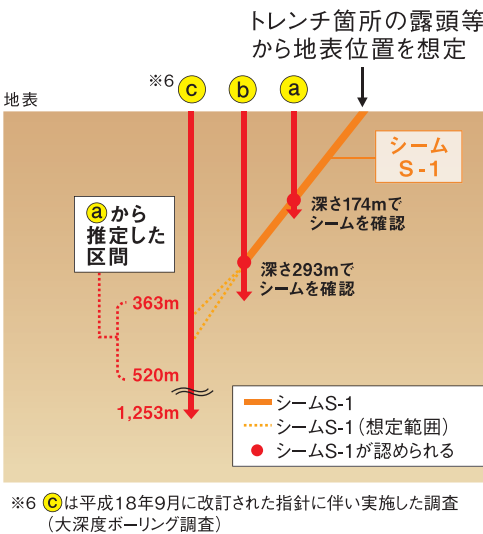
安山岩礫がシームを分断 (横抗 21m付近)

安山岩礫がシームに入り込む (横抗 17m付近)

※5 シームS-1<sup>1</sup>は、水平ボーリング調査や横抗内の観察の結果、シームS-1からの分岐であると考えられます。

### 調査結果3 シームS-1の連続性 調査位置図 ④

ボーリング調査の結果、深部方向については長く連続しません。

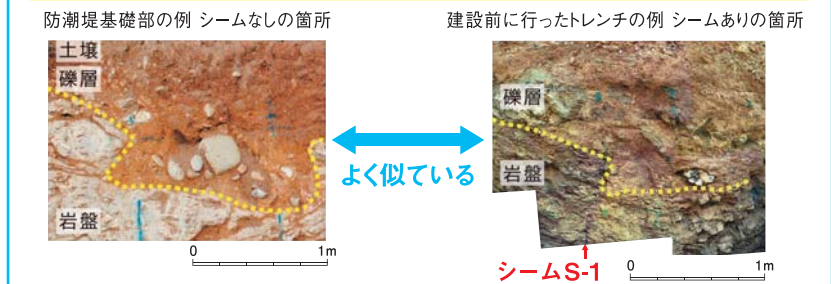


### 調査結果4 海岸部シームの性状 調査位置図 ⑦

海岸部と敷地内のシームは、同様の走向・性状・鉱物組成など共通性を有しています。  
海岸部のシームは、堅硬な岩石中に断続的に分布していることなどから、活動性が問題となるものではありません。

### 調査結果5 既往調査に関連する考察 調査位置図 ⑤⑥⑦

建設前に行ったトレンチ調査でのスケッチ形状(岩盤上面の段差形状とその上を覆う堆積層の傾斜)と同様の形状は、侵食影響が大きい海岸部やシームを伴わない防潮堤基礎部でも多く見られました。



当社は、地域の皆さまにご安心いただけるよう、今回の調査結果を含め、志賀原子力発電所の安全性について、丁寧にご説明していくとともに、新しい規制基準をクリアするよう適切に対応してまいります。

詳細については当社ホームページに掲載しております。 <http://www.rikuden.co.jp/shika-chousa/>

北陸電力株式会社